

言葉の魔術師シェークスピア&ミュージカル 朗読と歌でつくられる劇世界が、400年前の空間を蘇らせます。



プログラム

第1部 リーディングミュージカル「ロミオとジュリエット」60分

休憩
10分

第2部 ミュージカル講座(トーク&歌) 20分

「ロミオとジュリエット」はシェークスピア作品の中でも特に多くの方々に関心され、舞台・映画・音楽、あるいは「ロミオとジュリエット」に着想を得た「ウエストサイドストーリー」など、様々な表現で演じられてきました。

今回は、特的な表現の多い400年前のシェークスピアの世界を朗読・ミュージカル・演技・映像効果というスタイルで見て頂きます。想像力を駆使して自分だけの「ロミオとジュリエット」を思い描きながら鑑賞していただくことで、今と変わらない若者たちの葛藤をより身近に感じることができるかと思います。朗読ミュージカルならではのわかりやすさ、ト書きまでを表現する演出で、初めてシェークスピアに触れる若い皆さんでも十分楽しめるプログラム構成になっております。不朽の名作「ロミオとジュリエット」をどうぞ堪能下さい。

本編終了後、ミュージカル講座を行います。新旧名作ミュージカルナンバーなどを織り交ぜながら、ミュージカルの歴史、ミュージカルとオペラの歌唱方法の違いなどを実演・解説、4大ミュージカル「レ・ミゼラブル」「キャッツ」「オペラ座の怪人」「ミスサイゴン」の紹介、初めてミュージカルに触れる若い人たちにもミュージカルの楽しさ、朗読劇の楽しさを感じ取って頂ける内容になっております。



この世は舞台、
人間はみな役者

ウィリアム・シェークスピア
William Shakespeare(1564~1616)

シェークスピアの作品は、現代に生きる私達にも共感できる普遍的なものです。言い換えれば、中世以来、人も世もあり変わっていないということなのかもしれません。喜劇が悲劇のように悲しく、悲劇が喜劇のように滑稽に感じられる独特の世界を構築したシェークスピアの言葉は、私たちにも魅力的に深く心に突き刺さってきます。



多彩なミュージカルナンバー (MUSICAL NUMBER)

● 第一部

- M1「オーバーチュア」
- M2「古き伝えの物語」
- M3「運命の人」
- M4「仮面舞踏会」
- M5「ジュリエット」
- M6「ロミオとジュリエット」
- M7「神の恵み」
- M8「A-MEN主イエスよ」
- M9「治安を乱す者共」
- M10「別れの朝」
- M11「死神が連れ去った」

● 第二部(予定)

- M1「Tonight」(ウエストサイドストーリー)
- M2「ザ・ミラー」(オペラ座の怪人)
- M3「オペラ座の怪人」(オペラ座の怪人)
- M4「メモリー」(キャッツ)
- M5「世界が終わる夜のよう」(ミス・サイゴン)
- M6「民衆の歌」(レ・ミゼラブル)
- M7「Quality of life」(オリジナル)